

APRU-IRIDeS マルチハザードプログラム サマースクールを開催しました（2016/7/19-22）

テーマ：国際連携、APRU, マルチハザード
場 所：東北大学災害科学国際研究所

東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）と環太平洋大学協会（Association of Pacific Rim Universities：APRU）は、東北大学において、第4回目となるマルチハザードプログラムサマースクールを7月19-22日の4日間にわたり開催しました。参加者・講師を含め、17か国のべ50名が参加しました。開会式では、里見進 東北大学総長、キース・ウォン APRU ディレクター、今村文彦 災害科学国際研究所長が開会の挨拶をされました。

今年は「災害の経験と教訓の次世代への伝承」というテーマのもと、初日は東北大学の教員が、東日本大震災からの教訓や経験をもとに、教育、国際防災戦略、災害医療、地質学、災害対応などの様々な観点から講義を行いました。各教員の講義タイトルは以下の通りです。

- 奥村 誠 教授（副所長、人間・社会対応研究部門 被災地支援研究分野）
「IRIDeS における大規模災害への学際的アプローチについて」「近年日本における災害時の物流の問題点」
- 江川 新一 教授（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）
「レジリエント社会の構築に向けて：災害医療の視点から」
- 小野 裕一 教授（情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス）
「仙台防災枠組みのフォローアップ」
- 後藤 和久 准教授（災害リスク研究部門 低頻度リスク評価研究分野）
「古津波の歴史的・地質学的痕跡」
- 桜井 愛子 准教授（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）
「東日本大震災からの教訓に基づいたコミュニティ主体の防災と学校の役割の強化について」
- 泉 貴子 特任准教授（情報管理・社会連携部門 社会連携オフィス）
「防災における様々なステークホルダーの役割」

さらに、仙台市や多賀城市などの自治体から復興の取り組みや、国際 NGO（CWS Japan）や企業（国際航業）からも防災におけるそれぞれの役割について学びました。

21日の巡検では、名取市の日和山、防潮堤、震災慰霊碑、および多賀城市では、災害復興公営住宅、多賀城駅前再開発事業、最後に多賀城高校の学生と防災ハンカチを用いながら交流を行いました。参加者は、実際の復興の取り組みや高校生たちの防災活動に大変感銘を受けていました。

参加者からは、「特に東日本大震災に関する研究や被災地の視察ができ、今後の研究にとっても役になった」「災害に関する異なる分野の研究を学ぶことができ、大変有意義だった」「様々な大学や国からの参加者と交流でき、今後もこうした交流を続けたい」などのフィードバックがありました。参加者からの意見やアドバイスをもちに、来年のサマースクールのプログラムをさらに充実させていきたいと考えています。



里見総長の挨拶



開会式での全体写真



今村所長の挨拶



ウォン APRU ディレクターの挨拶



日和山にて（巡検）



多賀城高校との交流（巡検）



質疑応答



グループ討議